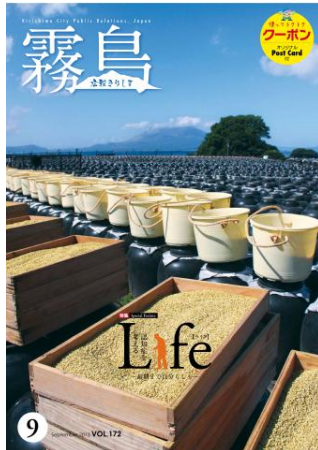


平成25年度鹿児島県広報コンクール

① 広報紙 ② 発行部数・年間発行回数 ③ 判型・平均ページ数 ④ 担当課

■ 広報紙部門

〈 特 選 〉



- ① 広報きりしま（平成25年9月10日号）
- ② 46,000部・12回
- ③ A4判・28ページ
- ④ 秘書広報課



○ 講評

〔企画〕

● 特集「認知症を考える」

- ・ 認知症をテーマにした特集は、導入部分をはじめその構成、切り口とも秀逸。
- ・ 10ページも割いて読み応えがある。
- ・ 【ライフ】のカットもおしゃれ。特集の各面にあるため統一感がある。

〔文章〕

- ・ 特集は、寸劇の話から導入しておりとっつきやすい。専門家の話は分かりやすく、実際に介護している人の話も優しい目線で描かれている。
- ・ 多くの人々が登場し、その言葉をベースにすることで、読みやすく親しみがわく文章が多い。

〔デザイン・レイアウト〕

- ・ どの写真もいい表情、風景が撮れていてうまい。その写真を大きく扱うことで、見出し、記事をまとめて配置することができ、全体として読みやすくなっている。「人の風景」などのシリーズもののカットもいい。
- ・ 誌面の仕上がり、写真と記事とのバランスもさすが。市総合計画を紹介する「霧島の未来予想図」もこれだったら読もうかと思わせる。

〔その他〕

- ・ 地元応援クーポン券と絵はがきを「シティセールス」とする発想が面白い。他市町村へもって広がってもよい。



〈 入 選 〉



- ① 広報たるみず（平成25年11月号）
- ② 8,500部・12回
- ③ A B判・40ページ
- ④ 総務課



○講評

〔企画〕

●特集「素敵な大野へようこそ。」

- ・山間・過疎・高齢地域の頑張りがよく伝わってきた。
- ・地域振興を考える特集は、桜島大正噴火100周年とも関係してタイムリー。
- ・「つらさげ芋」の写真もおもしろいように撮れている。

●その他

- ・独自の映画クーポン券付き「シネマシネマ」や「おいしい、おはなし」など「もっと楽しめる自治体広報誌を」「これまでの広報誌になかった付加価値を」のコンセプトは健在だ。
- ・「絶妙景観」は、毎号とも写真が素晴らしい。表紙写真もよい。

〔文章〕

- ・垂水市の取組紹介「たるみずニュース」や「まちの話題」は簡潔にまとめてある一方、特集はしっかりと書き込み、メリハリを付けている。

〔デザイン・レイアウト〕

- ・「まちの話題」や「特集」はどの面もすっきりとしたレイアウト。
- ・最後に行政情報をまとめてあるのもいい。「注目情報」「詳しくは〇ページ」など、情報を市民が選択して見ることができる。
- ・全体で40ページだが、遊びの要素があり疲れない。「楽しんで読める広報誌」というコンセプトが十分に伝わる誌面になっている。





- ① 市報あいら AIRView（平成25年12月16日号）
- ② 28,800部・12回
- ③ A4判・24ページ
- ④ 秘書広報課



○講評

【企画】

- ・特集「櫻島大正噴火100周年～始良に残る大正大噴火の記録～」は、古写真、地図、年表を使って、桜島大噴火の様子、避難民と始良との関わりを詳しく振り返っている力作。ただ、住民の証言など掘り起こしがまだ欲しい。
- ・「今月の始良人」は住民参加型。錦江湾奥会議のイベント紹介は、近隣自治体との連携に注目。

【文章】

- ・特集は、記念碑のミニ情報や橋村健一氏の紹介などもあり、記事が長い割には読みやすい。

【デザイン・レイアウト】

- ・「まちの話題」は、1ページを变形4分割し、記事、写真を配置してあり工夫を感じる。



- ① 広報やまと（平成25年3月号）
- ② 1,600部・6回
- ③ A4判・16ページ
- ④ 総務企画課



○講評

【企画】

- ・特集「シマのたからをあしたへとどける。～奄美・琉球を世界自然遺産へ」は、世界遺産とは何か、登録までの手続き、地元の課題などよくまとめている。ただ、もっと住民の声や期待感も取り上げてほしかった。
- ・前後の号の特集もいい。年6回の発行というのが惜しい気がするが、これだけの特集を毎月続けるのは困難なことだろう。

【文章】

- ・「村の話題」は1ページに2本ずつ。他市町村よりスペースが広いため文章も長い、これはこれでいい。

【デザイン・レイアウト】

- ・写真を大きく扱い、下に記事を流している。すっきりしたレイアウトで、読みやすいし、見栄えもする。



- ① 市報しぶし（平成25年9月号）
- ② 14, 100部・12回
- ③ A4判・40ページ
- ③ 総務課



○講評

〔企画〕

●特集「解ってほしい、気付いてほしい、子どもたちのこと。」

- ・発達障害福祉月間に合わせてあり好印象。
- ・市の取り組みと利用者の声を紹介しているが、ちょっと「自画自賛」の印象を受ける。課題やこれからの展望などもほしい。

〔文章〕

- ・「毎号40ページ」に意気込みを感じるが、記事が多すぎるよう。「まちの話題」などは文章を簡潔にまとめて、写真を大きく見せたい。

〔デザイン・レイアウト〕

- ・「まちの話題」に並び写真が多いが、顔のはっきりしないものが散見される。せっかく広報紙に市民が登場するのだから、顔が分かる程度にトリミングしたい。

〔その他〕

- ・題字は、子どもたちの手書きで親近感を持てる。児童生徒の参加継続を。
- ・裏表紙の「くらしのカレンダー」は市民には便利。



- ① 広報ひおき（平成25年6月号）
- ② 23, 000部・12回
- ③ A4判・20ページ
- ③ 企画課



○講評

〔企画〕

●特集「日置市バス路線の現状に迫る」

- ・現状、ニーズ、費用対効果の問題、利用者の声、乗合タクシーの試験など興味深く読ませてもらった。日置に限らない県内各地で起きている問題をよくまとめている。
- ・行政PRになりかねないところを、市民アンケートを利用しているのが大事。

●その他

- ・「Life【かっこいい生き方を学ぶ】」も住民参加型。
- ・「まちの話題SP」は1ページだが、ページ数を多くし、商店街の寂れた風景と頑張っている人々の姿との対比があればさらによかった。

〔文章〕

- ・特集はよくまとめているが、文章がやや硬い。

〔デザイン・レイアウト〕

- ・特集は、各面とも記事を下に集めていて読みやすい。
- ・「まちの話題」は、行政・社会、教育・社会、観光・イベントと分けてあり親切。